



大村市
市民環境部 市民課

都城市
地域振興部 市民課

業種：自治体

大村市：市民環境部 市民課の
東友子さん(左)と益田莉穂さん。
都城市：地域振興部 市民課の
横井雄子さん(右)と曾山大輔さん。

「fiシリーズ」による印影スキャンで 迅速な印鑑登録を実現

住民情報システム「Acrocity」と「fiシリーズ」の組み合わせで住民サービスが向上

行政システム九州株式会社のWebアプリケーション型住民情報システム「Acrocity」を導入している自治体では、同ソリューション標準の業務用スキャナー「fiシリーズ」を活用し、印影スキャンによる迅速で確実な印鑑登録を実現して住民サービスを向上させています。導入自治体である長崎県・大村市役所と宮崎県・都城市役所（取材順）を訪ね、具体的な運用方法についてうかがいました。

「Acrocity」は住民の一生に寄り添うサービスを 包括的にサポートするシステム



行政システム九州株式会社
ビジネス推進部
ビジネスサポート課
課長 高山大輔さん



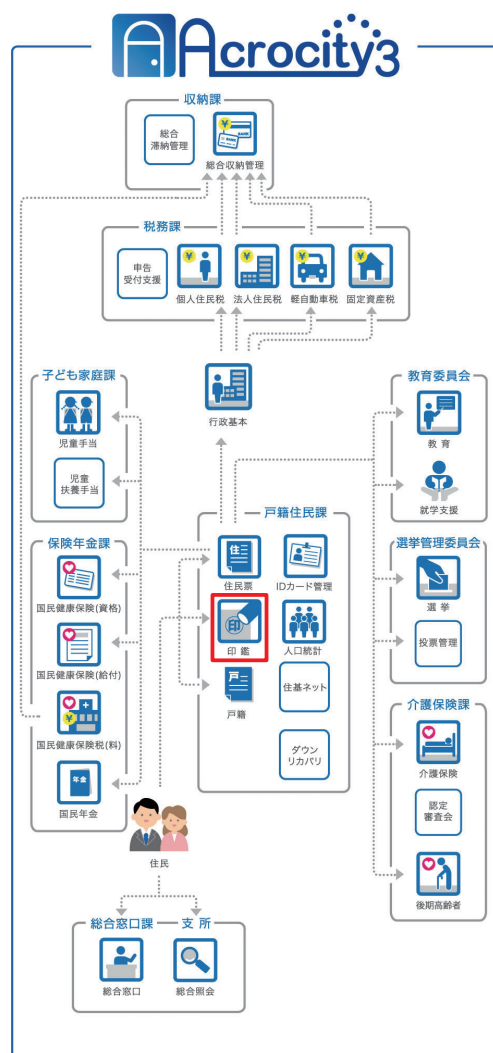
「Acrocity」標準スキャナー
「fiシリーズ」の1機種「fi-8170」。

「Acrocity」は、住民票や印鑑証明などの証明書発行、転入や転出の届出、出生・婚姻・死亡などの戸籍関係の届出、固定資産税・個人住民税・軽自動車税など、自治体の住民に関わるすべての業務を包括的にシステム化し、各業務が有機的につながるよう構築した、まさに「住民の一生に寄り添うシステム」です。

1971年創業の当社はこれまでに汎用機向け、クライアント・サーバー型と時代に応じた住民情報システムを提供してきました。現行のWebアプリケーション型システム「Acrocity」はクラウド運用による共同利用やBCP対策に最適化しており、広域行政にも対応します。2022年11月現在、全国108の自治体に導入されています。

「fiシリーズ」を活用する主な業務は印鑑登録です。住民の方が印鑑を登録する際に印影をスキャンし、そのイメージデータをシステムに登録します。「fiシリーズ」は「Acrocity」の標準スキャナーで、PFUの画像処理技術をシステムに取り入れています。今後は印鑑登録以外の業務にも「fiシリーズ」を活用していく予定です。

「Acrocity」の全体構成。中央やや上寄りにある自治体住民の基本データ「行政基本」を核として、全業務を包括的・有機的にサポートします。「fiシリーズ」は主に印鑑登録業務で活用されています。



「Acrocity」導入自治体の「fiシリーズ」活用事例

長崎県大村市

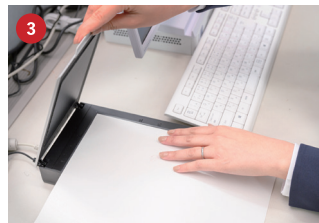
コンパクトな「fi-65F」を活用し 限られたスペースで印鑑登録業務の 効率化を実現

大村市は長崎県の中央部に位置する人口約9万8000人の市です。長崎空港を擁するなど交通の便がよいほか自然環境にも恵まれており、近年は人口増の傾向にあります。競艇（ボートレース）発祥の地というユニークな側面もあります。

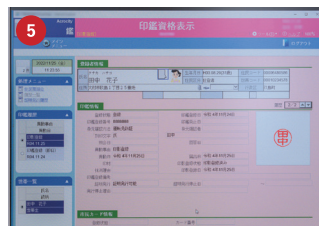
大村市役所ではA6フラットベッドスキャナー「fi-65F」を印鑑登録業務に活用しています。大村市役所 市民環境部 市民課 窓口グループ係長の東友子さんと、同じく窓口グループの益田莉穂さんに作業手順を見せていただきました。



窓口の奥にある印鑑登録専用デスク。「fi-65F」と端末が2組、設置されています。



原票を裏返して角を合わせて「fi-65F」にセットし、スキャンします。印影とその周辺だけがイメージデータになります。



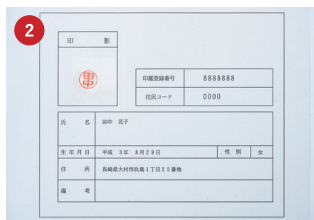
完成した原票のデータ。これを改ざん防止用紙に出力すると印鑑証明書になります。また、スキャンした紙の原票は別途保管します。

大村市では年間を通じて一日10件前後の印鑑登録申請があり、転入が増える3月・4月には一日40件になることもあったと。登録1件にかかる時間は10分から15分です。

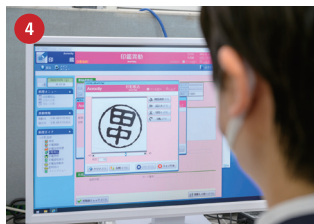
運用の特徴はコンパクトサイズの「fi-65F」を選択し、紙の角1か所を合わせてセットすれば印影部分が写るように原票のレイアウトを工夫している点です。「fi-65F」により、スペースが限られている場合でもスムーズな印鑑登録を実現できます。



東友子さん 益田莉穂さん



市民からの印鑑登録申請を受けて、職員が「Acrocity」に申請者情報や印鑑登録証（カード）の番号などを入力します。それをA4の紙に出力し、申請者から預かった印鑑を捺して、印影の上から保護シールを貼ります。これが原票（事務上の元になる伝票）になります。



「Acrocity」の画像処理機能で印影の傾きを修正し、濃度の調整も行います。

宮崎県都城市

マイナンバーカード交付率 日本一の市では 9台の「fi-8170」が活躍中

都城市は人口約15万9000人と、県内では宮崎市に次ぐ規模の主要都市です。マイナンバーカードの普及と利用促進に力を入れており、2023年1月末時点で90.1%の交付率は市区別で日本一です。

都城市では2～3世代にわたって「fiシリーズ」を活用しており、現在はA4高速スキャナー「fi-8170」を市役所本庁に2台、複数ある支所と市民センターに各1台の計9台を導入しています。本庁の地域振興部 市民課 副課長の横井雄子さんと、同じく市民課 主事の曾山大輔さんに、「fi-8170」の運用についてうかがいます。



窓口横にも受けられた登録作業用のスペース。「fi-8170」と端末が2組、設置されています。



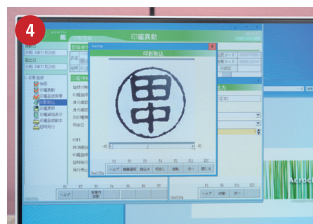
印影を貼り付けたA4の原票を「fi-8170」でスキャンします。毎分70枚（140面）の高速スキャン性能を備えているので、原票1枚のスキャンは瞬時に完了します。



横井雄子さん 曾山大輔さん



都城市ではシール状の紙に印鑑を捺して透明な保護シールを貼ってから、出力したA4の原票に印影を貼り付ける方法をとっています。



画像処理機能を使って印影の角度や濃度を調整し、システムに取り込んで原票データを完成させます。登録内容は職員2名以上で確認します。また、スキャンした紙の原票は別途保管します。

都城市では本庁だけで一日に20件から30件の印鑑登録申請があり、3月・4月には多いときでさらに10件程度が増えるとのこと。登録1件に要する時間は15分から20分です。お待たせしないよう手早く作業したいという思いがあるため、高速で確実にスキャンできる「fi-8170」の性能は職員に高い評価を得ています。

都城市では、利用者が登録と同時に印鑑証明書の取得を希望する場合、マイナンバーカードを所有していれば翌日のお昼以降にコンビニでも取得できることを案内しています（窓口での手数料300円に対してコンビニでは150円）。マイナンバーカードの高い交付率を誇る自治体ならではのサービスです。

